

# 【特別支援・小学校国語・「きつねのおきやくさま」】①

## 育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句まとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。 (1)オ
- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 (3)エ
- (思、判、表等) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 CI
- (学びに向かう力等) ○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。

## ICT活用のポイント

教材となる物語文への興味喚起 / 挿絵画像を活用して物語のあらすじや登場人物の気持ちへ着目させる

### 事例の概要

#### 【つかむ】

教材となる物語文に興味をもち、本時のめあてをつかむ

#### 【ICT活用の場面①】

○物語の登場人物が登場する、教師作成の動画を大型提示装置に映し、登場人物のセリフを手がかりにして物語の内容に興味をもつ。

#### 【追究する】

挿絵の並び替えを行い、物語のあらすじをつかむ

#### 【ICT活用の場面②】

○教師の読み聞かせを聞いた後、ICT端末を用いて、順序がバラバラになっている物語の挿絵を正しい順序に並べ替える。

#### 【まとめる】

挿絵クイズを行い、あらすじの振り返りとともに、次時の学習への見通しをもつ。

#### 【ICT活用の場面③】

○大型提示装置に提示された、登場人物の表情や本文を一部差し替えた物語の間違い探しを行い、あらすじを確かめるとともに、登場人物の心情に課題意識をもつ。

# 【特別支援・小学校国語・「きつねのおきゃくさま」②】

## 【ICT活用の場面① <つかむ>】

大型提示装置に、登場人物のペープサート劇を撮影した教師の自作動画を映し、登場人物のせりふについて問いかけることで、物語を読むことに興味をもたせました。

C「きつねさんの幽霊が出てきた」  
T「なんて言った？」  
C「泣いてた」  
T「なんで泣いてたの？」  
C「気持ちを考えてくれないから！」  
T「この本を読んで僕の気持ち分かってほしかったんだって」  
C「読みたい！」「気になる！」

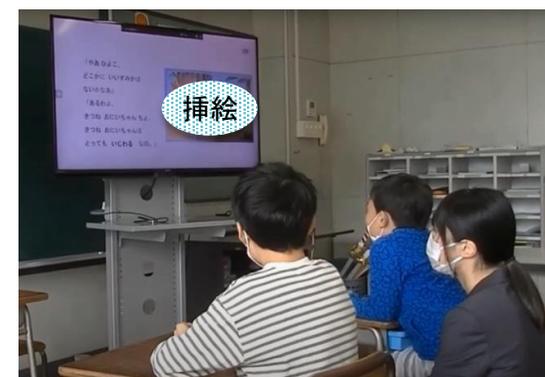


口頭指示だけだと理解が難しい児童に対して、大型提示装置やICT端末をくり返し活用して**物語を視覚的に提示**しました。

授業を通して児童が物語への興味を継続させ、行動を表す言葉や登場人物の気持ちに自然と着目することができました。

## 【ICT活用の場面③ <まとめる>】

様子を表す言葉や挿絵の表情を差し替えた教材文を大型提示装置に映し、間違い探しをしました。様子を表す言葉や表情に自然と着目し、登場人物の気持ちに意識を向けることができました。



## 【ICT活用の場面② <追究する>】

読み聞かせた絵本の最後に、並び替え用の挿絵にリンクするQRコードを貼り付けておき、絵本への興味をそのまま教材につなげました。



バラバラな順序の物語の挿絵を、児童が記憶を頼りに正しく並べ替えます。挿絵を見比べることで、物語のあらすじを思い起こそうという意識を自然ともてました。また、大型提示装置に映して友達と考えを確かめ合いました。

【活用したソフトや機能】

プレゼンテーションソフト 写真 動画